

大東市歴史の散策道

～ 古堤街道を行く（西コース）～

鴻池新田駅⇔住道駅（所要時間1～1.5時間）

鴻池新田駅から住道駅まで、古堤街道をたどりながら、途中の文化財を見学するコースです。道は平坦で歩きやすく歩き慣れていない方でも安心です。街道と並行に流れる寝屋川は、今は高い堤防が築かれています。江戸時代は、船に乗る人と街道を歩く人との間で掛け合いをしながら野崎まいりを行ったということです。そんな風景を想像しながら昔の街道を歩くのも風情があるかもしれません。

(始)鴻池新田駅 ⇒ 勿入淵跡碑 ⇒ 勝福寺 ⇒ 諸福天満宮 (⇔ 素戔鳴神社)
⇒ 太子堂・大神社 ⇒ 樋門碑 ⇒ (終)住道駅



鴻池新田駅



(昭和30年頃)

鴻池新田駅から北へと向かい、寝屋川を渡り少し行くと左手に勿入淵跡碑が見えてきます。「勿入淵」は平安時代に清少納言の『枕草子』に謳われています。古代における河内湖は、長い歳月を経て、近世には深野池・新開池となりました。その池の淵を「内助の淵」、「勿入淵」と呼び、一昔前まではそのなごりを見ることができました。



勝福寺

勿入淵跡碑から古堤街道沿いに東へ歩くと、慶長元年(1596)に創建されたとされる勝福寺に出会います。以前には、羅漢堂があり、五百羅漢像が並べられていました。明治18年(1885)の大洪水でお堂と共に多くが流されてしまいましたが、現在では残された135体が本堂の鴨居に安置されています。

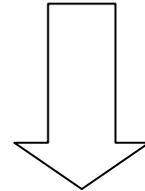


五百羅漢像(勝福寺)



諸福天満宮 (本殿は市指定文化財)

勝福寺の向かいには、かつては産土神社と呼ばれた諸福天満宮があります。本殿から見つかった木札から、寛永20年(1644)に勧請し、同時に本殿が建てられたことが明らかになりました。本殿は江戸時代初期の権現造の様式ながら、桃山建築の雰囲気をよく残しています。



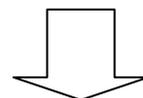
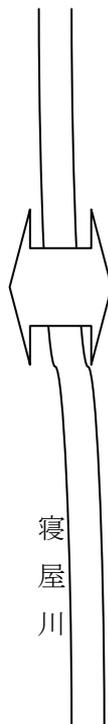
素戔鳴神社

諸福天満宮から寝屋川を渡った南側に素戔鳴神社があります。創建はよくわかっていませんが、少なくとも安永8年(1778)には「牛頭天王社」と呼ばれ存在していたことが古文書に記されています。明治元年の神仏分離令により、現在の「素戔鳴神社」に改称したのではないかと考えられます。



古堤街道

大阪と奈良を結ぶ主要な道路の1つでした。京橋を起点とし、大和川の付替え後は、寝屋川に沿って進み、深野南新田内を横断する現在のルートになりました。





太子堂



太子田大神社

再び寝屋川を渡り、太子堂に向かいます。現在ここに祀られている聖徳太子像は、明治6年まで同地にあった善根寺というお寺にありました。また、隣にある大神社には聖徳太子ゆかりの寺「四天王寺」を描いた絵馬が奉納されています。太子田という地名とともに、聖徳太子への信仰の厚さを物語っています。



聖徳太子像



白寿弁財天



大峰堂



北野神社



泉勝寺



街道を少し進むと、住宅の横に樋門碑を見つけることができます。この樋門碑からは、弘化2年(1845)よりここに樋門があったこと、安政、明治の改修を経たことがわかります。江戸時代には、古堤街道より北の地域は水がたまりやすかったため、寝屋川に排水するための樋門として使用されていました。

住道駅



このまま街道を東に向かい、府道の高架橋をくぐり、少し行くとJR住道駅に至ります